野生生物保護功労者表彰
岸良小中学校が文部科学大臣賞を受賞

5月14日の第72回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」にて、野生生物を保護し、次世代に引継ぎつつ自然とともに生きていく活動を表彰する野生生物保護功労者表彰式がありました。その中で、肝付町から岸良小学校、岸良中学校がウミガメ保護に関する活動を評価され、文部科学大臣賞を受賞しました。今回は、岸良小中学校のウミガメ保護活動の取り組みについて詳しくご紹介していきます。

●まず、ウミガメについて

日本では5種のウミガメがみられます。そのうち日本の砂浜で産卵が見られるのはアカウミガメ（福島県から沖縄県）、アオウミガメ（小笠原諸島や南西諸島）、タイマイ（沖縄県）の3種です。残り2種のオサガメとヒメウミガメは日本では産卵をしませんが沿岸を回遊することがあり、漁業による混獲や海岸に漂着することがあります。鹿児島県はアカウミガメの重要な上陸産卵地であり、岸良海岸に産卵のため上陸するのも主にアカウミガメとなります。

●ウミガメの産卵について

ウミガメは普段は水中のなかで生活していますが、爬虫類のため水中で呼吸する事ができず、卵も同じように水中では息ができないので卵は浜辺に産み落とします。産卵は夜間の敵が少ないときを選んで浜辺に上がって50㎝ほどの穴の底に卵を産みます。

また、ウミガメの産卵の時に涙を流すのは、体内の余分な塩分を排出しているのと眼球の乾燥を防ぐためです。ウミガメはエサを食べるときに海水も一緒に呑み込みます。しかし、そのままだと体内に塩分が残るため、眼の塩類腺（えんるいせん）から塩分を含んだ粘液を排出します。それが、産卵が苦しくて泣いているように見える理由です。